

2023年度期中評価（投資計画）について

2024年10月7日
北陸電力送配電株式会社

未来へ、めぐらせる。

1. 投資量の概要

- 当社の投資量実績は、外生要因の影響を受け、工事延期により多くの主要設備において計画を下回りました。
＜投資量の主な未達要因＞
 - ✓送電：設備停止調整・用地交渉難航・申込者都合による工事延期
 - ✓変電：機材納期遅延による工事延期
 - ✓配電：能登半島地震による工事延期
- 上記、送電・変電の延期した工事については、**全て第一規制期間内に竣工の見込み**です。
なお、今後は更なる早期発注等により、第一規制期間の工事を計画通り推進してまいります。

【2023年度の投資量実績】

	主要設備	単位	計画 (A)	実績 (B)	増減 (B-A)	達成率 (B/A)	要因内訳
送電	鉄塔	基	69	57	▲12	83%	・用地交渉難航に伴う後年シフト ▲3基
	架空送電線	km	92	83	▲8	90%	・連系開始希望日変更に伴う後年シフト ▲3基、▲0.2km ・用地交渉に伴う鉄塔位置変更や先方受電点変更による巨長減 ▲0.1km ・設備停止調整による後年シフト ▲6基、▲7.8km
変電	変圧器	台	8	6	▲2	75%	・自然災害（土砂崩れ）による変圧器運搬道路損傷に伴う工事延期▲1台 ・機材納期遅延に伴う工事延期▲1台
	遮断器	台	8	5	▲3	63%	・機材納期遅延に伴う工事延期▲3台
配電	低圧線	km	409	311	▲98	76%	・能登半島地震による工事延期
	高圧線	km	1,393	1,225	▲167	88%	
	柱上変圧器	台	2,044	2,040	▲4	100%	
	コンクリート柱	本	2,175	2,413	+238	111%	・申込工事等の減少による施工力を活用した工事前倒し
	地中ケーブル	km	24	27	+4	113%	

2-1. 地中ケーブル更新工事（配電）について

2

- ・地中ケーブル更新工事は、無電柱化等により敷設されたケーブルを高経年化に伴い新しいものに取替する工事になります。
- ・2023年度は、申込工事や無電柱化工事が減少したことで、施工力を地中ケーブルの更新工事の前倒しに活用し、計画工事物量24kmに対し、実績は27kmと計画を上回る工事を実施しました。

【地中ケーブル更新工事の流れ】



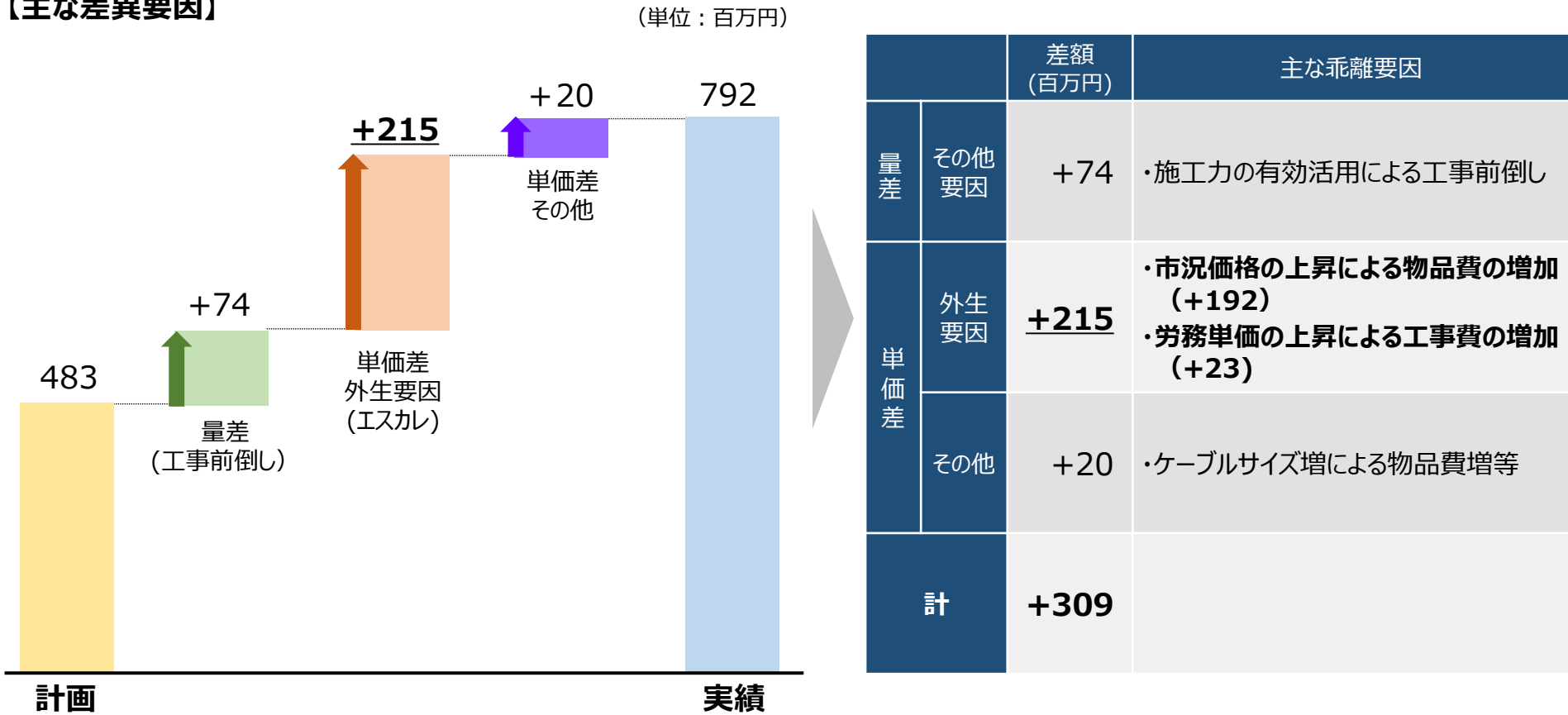
【地中ケーブル更新工事（2023年度実績）】

	単位	23年度計画 A	23年度実績 B	計画との差額 B-A	主な乖離要因
工事物量	km	24	27	+4	・後年の更新工事を前倒しで実施
物品費	百万円	264	524	+260	・市況価格の上昇
工事費	百万円	219	268	+49	・労務単価の上昇
金額	百万円	483	792	+309	

2-2. 地中ケーブル更新工事（配電）の差異分析概要

- 更新工事の前倒しや外生要因による単価上昇（エスカレ）により、計画に対し、309百万円の増加となりました。
- エスカレについては、物品・工事費合計で+215百万円の影響が発生しております。
※市況価格の上昇による物品費の増加：+192百万円
労務単価の上昇による工事費の増加：+23百万円

【主な差異要因】



（参考）新たな効率化の取組みについて

4

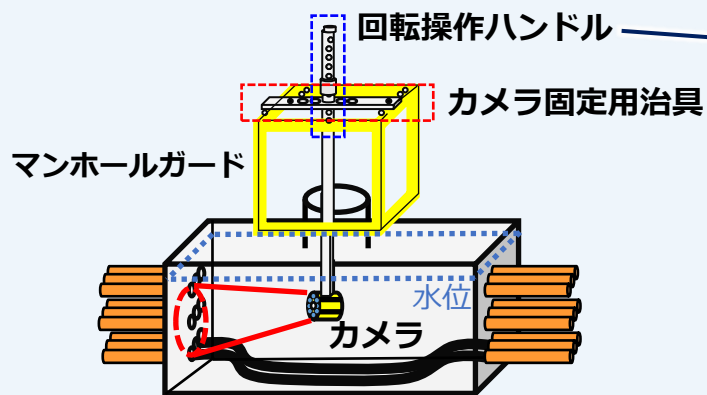
- 現在、地中ケーブル工事の新たな効率化策として、マンホール調査用カメラを用いた現場調査の省力化に取り組んでおります。（2024年度試行実施中）
- 現場調査では、作業員の安全確保のため、マンホール内の①排水作業、②換気作業、③酸素濃度測定を実施したうえで④入孔し、調査を実施しております。
- カメラを用いて地上から調査することで、上記①～④が省略可能になり、調査時間の短縮を見込んでいます。

※労務量の削減率 : ▲60%程度/件
※年間削減額（概算値） : ▲2百万円程度/年

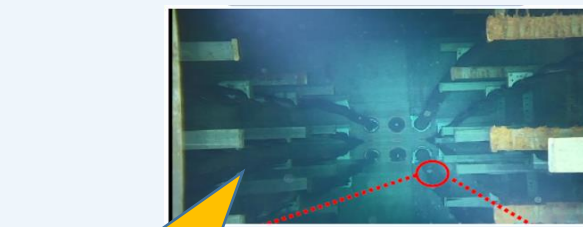
【高経年化対策工事（地中ケーブル）の現場調査フロー】



<マンホール調査用カメラ設置例>



<マンホール内のカメラ映像>



水中においても
クリアな映像

ケーブル銘板も
確認可能

3. 市況価格・労務単価の上昇による影響（エスカレ影響）について

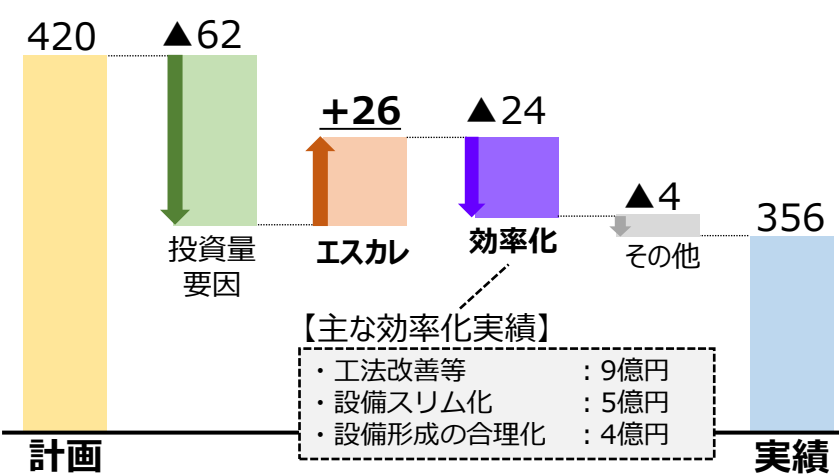
5

- 2023年度は全体で+26億円程度のエスカレ影響があり、配電設備において顕著に発生しております。
- 送電・変電については、2023年度のエスカレ影響は限定的となっておりますが、足元では既に契約単価が上昇しており、今後、配電設備と同様にエスカレ影響が発生すると見込んでおります。

【投資額の概要】

設備区分	23年度計画A	23年度実績B	差引B-A	差異要因内訳			
				投資量増減	エスカレ	効率化	その他
送電	116	88	▲28	▲22	+2	▲14	+6
変電	79	58	▲21	▲18	+0	▲5	+2
配電	226	210	▲16	▲22	+24	▲5	▲13
(再掲) 地中ケーブル	4.8	7.9	3.1	0.7	+2.2	-	+0.2
計	420	356	▲65	▲62	+26	▲24	▲4

【主な差異要因】



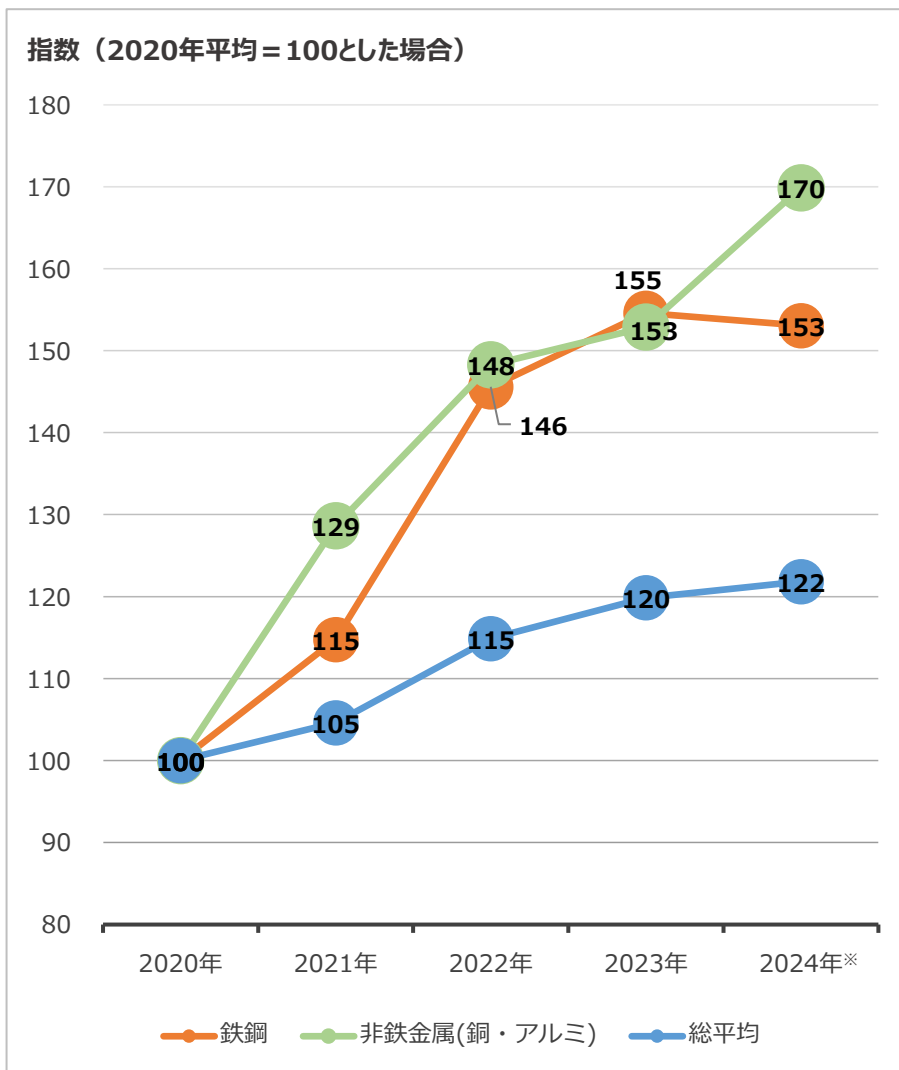
【2023年度のエスカレ影響額および算定方法】

	エスカレ影響額（億円）	算定方法
送電（主要設備）	+1.5	・物品費、工事費における市況単価の上昇率を申請単価、実績物量に乗じて算出 エスカレ影響額 = 申請単価 × 市況単価の上昇率 ※1 × 実績物量
変電（主要設備）	+0.3	・物品費、工事費における市況単価の上昇率を申請単価、実績物量に乗じて算出 エスカレ影響額 = 申請単価 × 市況単価の上昇率 ※1 × 実績物量
配電 （主要設備、その他設備の一部）	+23.7	・物品費、工事費における実績単価の上昇率を申請単価、実績物量に乗じて算出 エスカレ影響額 = 申請単価 × 実績単価の上昇率 ※2 × 実績物量
計	+25.5	

※1 基準年度：2021年度、市況単価上昇率：基準年度単価から各工事の契約年度（主に2022年度契約）単価の上昇率

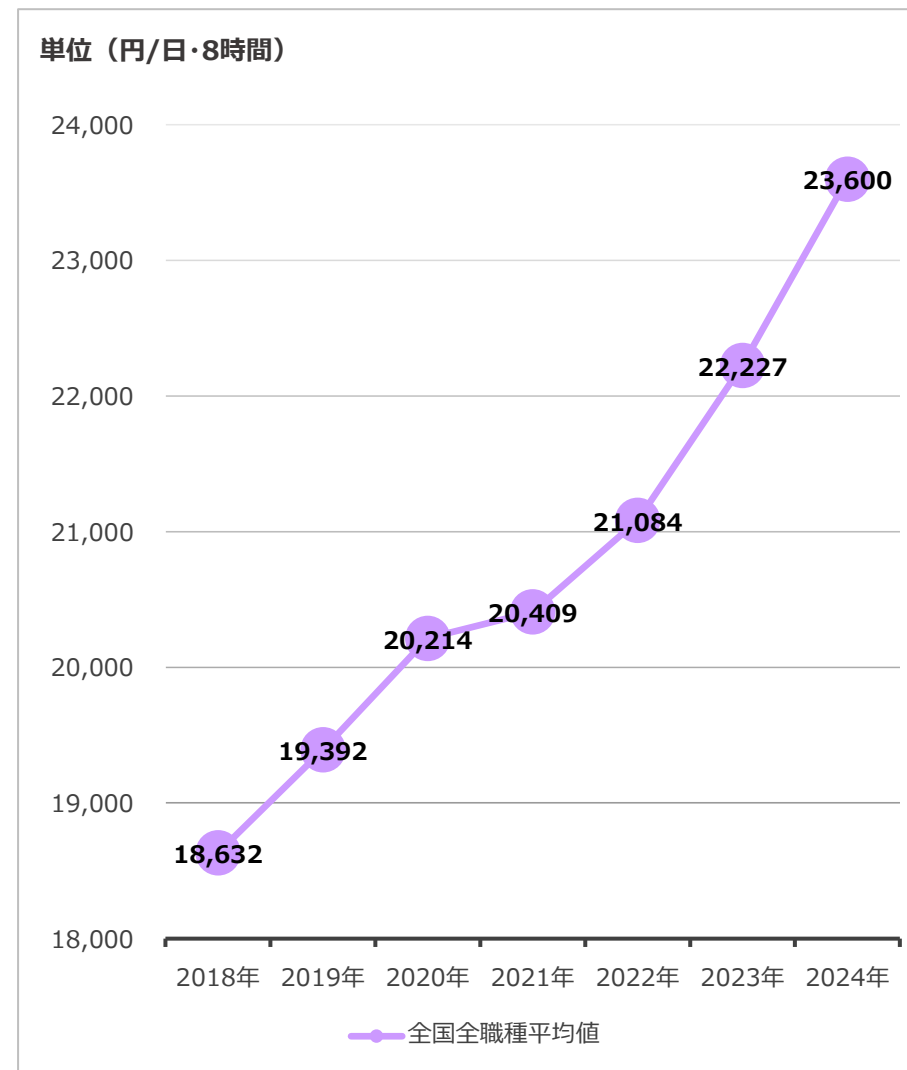
※2 基準年度：工事費は2021年度、物品費は2018-2020年度平均、実績単価上昇率：基準年度の実績平均単価から2023年度実績単価の上昇率

【国内企業物価指数（鉄鋼・非鉄金属・総平均）の推移】



【出典】日本銀行HP

【公共工事設計労務単価の推移】



【出典】国土交通省HP

未来へ、めぐらせる。



北陸電力送配電